

メロン果実汚斑細菌病に対する 育苗期の薬剤防除体系

みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター園芸研究所

メロン果実汚斑細菌病の病原細菌 (*Acidovorax avenae* subsp. *citrulli*、以下「Aac」) の本圃への持ち込みを防ぐには、カスガマイシン・銅水和剤 (以下「KC 剤」) を接ぎ木前日、10 日後、17 日後に計 3 回散布する薬剤防除体系が有効です。

果実汚斑細菌病の特徴

本病は、種子伝染性の病害であり、植物防疫法により国内への侵入が警戒されていますが、本県では平成17年にメロンでの発生が認められました。本病は、各部位に水浸状の病斑等を生じ、果実では病勢の進展により軟化腐敗を伴う裂果を生じます。本病が国内に定着するとメロン生産に多大な被害を与える可能性があります。



写真1 メロン果実汚斑細菌病の病徴

KC 剤の防除効果

メロンの育苗期間では、Aac は接ぎ木後の養生管理中に急激に増殖します。KC 剤 1,000 倍希釈液を接ぎ木前日、10 日後および 17 日後に散布することで、養生管理中の Aac の増殖を抑制するとともに、本圃への持ち込みを最小限にすることができます (図1)。

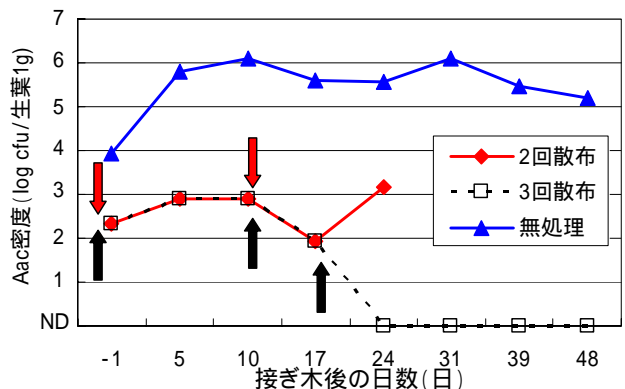


図1 メロン苗上の Aac に対する KC 剤散布の防除効果
KC 剤の散布日は赤矢印が 2 回散布区、黒が 3 回散布区

薬剤防除体系

薬剤防除体系と育苗管理スケジュールのイメージを図2に示しました。なお、本病の防除では、温湿度や灌水方法に十分注意を払う等の耕種的防除を徹底する必要があります。また、KC剤の散布による薬害が生ずる可能性があるため、高温時には散布を行わない等、散布する条件には十分注意しましょう。

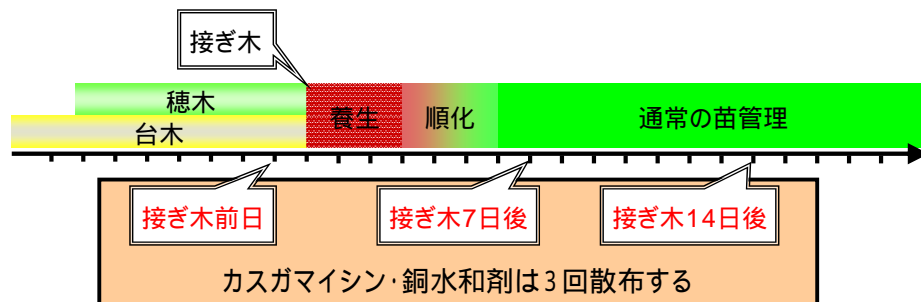


図2 Aac に対する薬剤防除体系と育苗管理のスケジュール (イメージ)

< 問い合わせ先 ; 園芸研究所病虫研究室 電話 0 2 9 9 (4 5) 8 3 4 2 >